

2014年（平成26年度）複数年サイクル点検評価レポート【施策評価】

分野名	Ⅱ-4(1) 健康で安心して暮らせる社会の構築 (良好な大気環境を確保するために)	施策No.	18	施策名	光化学オキシダント対策の推進
-----	--	-------	----	-----	----------------

目的、内容	原因物質の一つである VOC 排出量を、法・条例による排出規制や自主的取組の促進により削減する 光化学オキシダントとその原因物質の広域移流による影響の把握に努める 2020年目標：光化学オキシダント濃度 0.12ppm（注意報発令レベル）未滿を目指す			
副次的効果、外部効果等				
関係法令、行政計画等	大気汚染防止法、府生活環境の保全等に関する条例：NOx、VOC の排出規制 第9次大阪地域公害防止計画 大阪府化学物質適正管理指針：VOC 排出抑制			
国等の政策、社会情勢等	2012年3月環境省「光化学オキシダント調査検討会報告書」：モニタリングの充実・データの多角的解析、排出インベントリの精緻化、シミュレーションの高度化を通じて光化学オキシダントに関する現象解明を進める 2013年に開催された「第15回日中韓三カ国環境大臣会合」において、国の提案により大気汚染に関する三カ国政策対話の設置に合意 2014年8月中央環境審議会大気・騒音振動部会微小粒子状物質等専門委員会「光化学オキシダントの環境改善効果を適正に示すための指標について（中間とりまとめ）（案）」：光化学オキシダントの環境改善効果を適切に示すための新指標が示された。			
施策実施に要したコスト（職員人件費を除く）	事業のコスト（千円）	H23（決算額）	H24（決算額）	H25（決算額）
	環境目的の事業費	本施策が主たる目的であるもの 647	589	494
	事業費	本施策が従たる目的であるもの 102,006	96,694	101,639
	環境以外の目的を含む事業費	0	0	0
取組指標及び実績 (施策効果の定量評価)	名称	把握方法	実績	
	① 光化学スモッグ注意報発令回数	環境白書掲載データ	7回（2008年度）、13回（2009年度）、12回（2010年度） 4回（2011年度）、4回（2012年度）、7回（2013年度）	
	② 光化学オキシダントの日最高濃度が0.12ppm以上の日数	「大阪府における光化学スモッグ発生の現況とその対策」	10日（2008年度）、17日（2009年度）、15日（2010年度） 4日（2011年度）、6日（2012年度）、11日（2013年度）	
	③ 非メタン炭化水素の年平均濃度（一般環境測定局）	大気汚染常時監視結果の報道提供資料	単位：ppmC 0.25（2008年度）、0.22（2009年度）、0.20（2010年度） 0.20（2011年度）、0.18（2012年度）、0.18（2013年度）	
	④ VOC 届出排出量（再掲）	生活環境保全条例に基づく届出排出量をもとにした集計値	10.9千t/年（2010年度実績）、10.3千t/年（2011年度実績）、 9.9千t/年（2012年度実績）	
工程表の進捗状況	工程名	進捗状況※	主な事業の名称	事業の実施状況
	NOx 等ばい煙対策			
	排出事業者に対する排出抑制指導・規制	☆☆	大気汚染防止規制指導事業	届出指導・審査、立入検査による改善指導等
	事業者による自主的な負荷削減への取組みの促進	☆☆	化学物質対策推進事業	事業者に対する排出削減の適正管理の指導助言
	VOC対策			
	大規模排出事業所に対する排出基準の遵守指導	☆☆	大気汚染防止規制指導事業	届出指導・審査、立入検査による改善指導等
	光化学スモッグ発生時における排出削減要請	☆☆	光化学スモッグ対策事業	緊急時対象工場へのNOx削減要請のべ1,493回（2013年度）
	化学物質管理制度を活用した事業者による自主的取組の促進	☆☆	化学物質対策推進事業	事業者に対する排出削減の適正管理の指導助言
	広域移流の実態把握、監視の推進			
	光化学オキシダントへの影響の実態調査 広域移流の監視	☆☆	光化学オキシダントの汚染機構に関する研究（2011～12） （環境農林水産総合研究所）	国立環境研究所と全国の地方環境研究機関の共同研究のなかで汚染特性、高濃度メカニズムの解明を行った。
光化学スモッグ前日予報制度の導入手法の検討	☆		他自治体の先事例や気象庁の前日気象情報について情報収集を行い、制度導入に向け検討。	
※進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗/☆☆計画どおり/☆計画以下の進捗/△計画とは異なる事業内容で進捗				
評価	評価	理由等		
	施策目的の達成状況	現状では目標を達成していない日数が数日ある	光化学オキシダントの日最高濃度が0.12ppm以上の日数は年度により変動があるが、直近のH26年度は10月末時点で4日に減少。今後も目標達成に向け、取組を推進。 (光化学オキシダントの要因物質である非メタン炭化水素濃度は長期的に減少傾向。)	
事業・工程の進捗状況	一部は計画以下の進捗	既に実施している法に基づく発令や気象庁の前日気象情報及び大気環境の状況などを踏まえ、前日予報制度に求められる役割や機能の整理などの検討が必要。		
計画見直し又は改善事項	見直し・改善点の有無	見直し・改善点の内容等		
	目標	無		
	施策の方向・主な施策	無		
	工程表	有 光化学スモッグ前日予報制度の検討を継続		
その他の改善事項	無			
関係課室	環境管理室			

環境総合計画部会委員による点検（所見）	点検評価手法の適正さについて	評価結果について	計画の見直し又は改善方針について
	点検評価の手続きについては、概ね妥当である。	評価結果については、概ね妥当である。	見直し・改善点の有無については概ね妥当である。しかし、「有」と評価された工程表欄について、さらなる検討が望ましい。